

38:24 三か月ほどして、ユダに、「あなたの嫁のタマルが姦淫をし、そのうえ、なんとその姦淫によって身ごもっています」と告げる者があった。そこでユダは言った。「あの女を引き出して、焼き殺せ。」

38:25 彼女が引き出されたとき、彼女はしゅうとのところに人を送って、「この品々の持ち主によって、私は身ごもったのです」と言った。また彼女は言った。「これらの印章とひとと杖がだれのものか、お調べください。」

38:26 ユダはこれを調べて言った。「あの女は私よりも正しい。私が彼女をわが子シエラに与えなかったせいだ。」彼は二度と彼女を知ろうとはしなかった。

38:27 彼女の出産の時には、なんと、双子がその胎内にいた。

38:28 出産の時、一人目が手を出したので、助産婦はそれをつかみ、その手に真っ赤な糸を結び付けて言った。「この子が最初に出て来ました。」

38:29 しかし、その子が手を引っ込めたとき、もう一人の兄弟が出て来た。それで彼女は「何という割り込みをするのですか」と言った。それで、その名はペレツと呼ばれた。

38:30 その後で、手に真っ赤な糸を付けた、もう一人の兄弟が出て来た。それで、その名はゼラフと呼ばれた。

嫁であるタマルの売春行為と妊娠を聞いて、ユダは性急に「焼き殺せ」と命じますが、その張本人はユダ自身でした。自分が人をさばくことによって、自分がさばかれることの実例です。人をさばくとき、つまり人の欠点や失敗を非難するとき、本人は自分

とは関係がないと思ってさばくのですが、実は神様からみればまさに同じことをしていると指摘されるでしょう。そしてさばいている分だけ、もっと悪いのです。

子どもはふたごで、ペレツが王とイエス様の先祖となりました。助産婦、つまり人間は別の子を長子としたのですが、主のご計画が違っていたのです。真赤な糸も役にはたちませんでした。このように神様のご計画は人間がどのように関わっても、また仮には妨げようとしても必ず実現するのです。主のそれまでのみわざを考えて、主の導きを理解し、そして将来の主のご計画を知って、それに従い仕えて生きるべきです。それが祝福と生きがいに満ちた人生です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

